

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 自分で考え進んで学び続ける子【知】
- まちやみんなどの関わりを大切に子【徳 公】
- 夢や未来の創造にたくましくチャレンジする子【体 開】

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

- <言語能力>
- <問題発見・解決能力>
- <自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

・教科書や資料等から必要な情報を取り出し、それを基に思考し、対話や議論を通して思考を整理・再構築し、表現する力
 ・様々な対象・事象の中から問題を見出し、解決方法を探し、計画・実行する。さらに、そこから振り返りを行い、次の問題発見・解決につなげていく力
 ・「やりたい自分」に向けての各活動における自己の取組や成長を振り返り、課題を修正する等自己調整しながら自己の成長に必要なことに気づき、成長へとつなげる力

中期取組目標

- 子ども一人ひとりの「学び」の高まりと自尊心の醸成を大切にします。
 - ・「人ものこと」との関わりを大切にし、主体的に問題を見出し友達と協働して解決する力を育てます。
 - ・一人ひとりの自己肯定感を高め、思いやりの心を育みます。
 - ・健康的な生活習慣を形成し、ねばり強く最後までやりぬく心と体を育てます。
 - ・地域や社会とつながる体験や本物との出会いを通して、自己の成長を見つける子を育てます。
- 子どもを真ん中にした「チーム奈良」の連携・協働を推進します。
 - ・家庭、地域、各関係機関等との連携を図り、「チーム奈良」で一人ひとりの子どもの成長を支えます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①児童が自分の考えや思いを言葉にしたり、伝え合ったりすることを通して、コミュニケーション能力を向上させることができるようにする。②子どもに育成する資質・能力を明確にし、子ども自身が成長を実感することができる授業を目指す。そのために低・中・高学年ブロックを中心とした日常からの授業の見合いや組織的な授業研究実践を重ね、授業改善を図る。③校外の研究会や研修会での情報発信やその共有を図り、互いに授業力を高める。
担当	学習研究部

学力向上に関わる本校の状況

<児童>
 ○自分の考えを発表する場面で、考えた根拠についても伝えることを意識している。
 ▲話し合いや発表の場面で、自分なりの根拠に伴って伝えているものの、その授業の学びの価値（ゴール）とずれていることもある。
 ▲一部の特定の子どもの発表などで授業が進められ、他の子どもが十分に学び合っているのか、どの程度理解できているのかが明確でない。
 ○ロイノートを活用して提出物を作成・改善・共有できる子どもが多い。

<教師>
 ○学びの価値（ゴール）に迫る、意味のある「学び合い」を実現させるために、単元の価値や最後になってほしい子どもの姿を明確にもつ意識が高まった。
 ○低・中・高でのブロックで研究をするめたことで、教職員が自分事として継続して研究する意識が高まった。

▲子どもが「根拠をもとに」考えているのかの見取りが十分とは言えない。

今年度の目標

ゴールに向かって根拠をもとに「学び合える子」の育成
 ～資質・能力を育み、子ども自身が成長を実感する単元づくり～

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
- ①児童が自分の考えや思いを言葉にしたり、伝え合ったりすることを通して、コミュニケーション能力を向上させることができるようにする。
 - ・より効果的にコミュニケーション能力を高めるために教科を垣限なく統一して研究を行う。
 - ・グループ学習や、友達との発表に対する感想を伝える機会などを積極的に授業に取り入れた授業デザインをする。
 - ・子ども同士が相互にコミュニケーションをするために、ICT機器を効果的に活用できるよう、GIGA推進部と連携し、有効な活用方法の周知や研修を行う。
 - ②子どもに育成する資質・能力を明確にし、子ども自身が成長を実感することができる授業を目指す。そのために低・中・高学年ブロックを中心とした日常からの授業の見合いや組織的な授業研究実践を重ね、授業改善を図る。
 - ・子どもに何が身に付いたら成長したと言えるのか、子どもの具体的な成長の姿を明確にして授業づくりをする。
 - ・詳細規準を明確にした授業づくりへの意識を高めるため、国語研究部や評価推進部と連携していく。
 - ③校外の研究会や研修会での情報発信やその共有を図り、互いに授業力を高める。
 - ・研究授業後の職員での振り返りや研修を行い、共有を図る。
 - ・区研究会等で学んだことを情報発信し、互いに授業力向上を図る。
- 下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
思いやりの心	①道徳の授業について学年研で話し合い、授業改善を図る。また、年1回以上保護者に道徳の授業を公開する。②YPAアセスメントを実施し、子どもの社会的スキル横浜プログラムを計画的に実施する。③てくら遠足や月1回程度のたてわり遊びを行い、異学年交流を行う。④③以外の教育活動でも他学年とのかわりができるようカリキュラム上に位置づけ、実施していく。⑤あいさつだけでなく、他者との関わりを大切に活動を増やしていく。
担当	道徳部・児童指導部

豊かに関わる本校の状況

○親しい関係の人とは、学年に関係なくあいさつすることができる。
 ○自己肯定感が高い児童が多い。
 ○素直な児童が多い。
 ▲素直なため、自分の思いを優先してしまい、「周りのために」「友達の良い行い」を考慮する力が弱い。
 ○道徳の学習では、良い考え、良い行いと思えることが発言できる。
 ▲道徳の学習が、日常生活につながっていない。日常生活に道徳の価値を落とし込めない。
 ○道徳の学習後の振り返りカードには、道徳の価値に気づき、これからの自分についてこうしたいと書いている。
 ▲道徳の学習では、皆の前であまり発表をしたがらない。また、発表はしても、普段の行動が伴っていない。
 ○学年関係なく、困っている子へ声をかけたり、下学年の子に優しくしたりできる児童が多い。
 ○人には優しくしたいと思っている児童が多い。
 ▲人とのかわり方・コミュニケーションのうまくいったと感じられる経験が少ないためか、進んで人とかわりをもったり、行動したりすることができない児童もいる。
 ○自分だけの視点で物事をとらえ、行動してしまう。
 ○仲のよい友達のように行いに気づく。
 ▲友達が頑張っている姿、よい行いをしている姿に気づきにくい。
 ▲友達がいけない行動をしても、その場で注意をせず、大人に伝える。
 ▲視野を広げようというため、周りにいる人や困っている人に気づかない。

今年度の目標

自分の周りへ視野を広げて考え、思いやりの気持ちを行動に移すことができる子を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
- ①道徳授業や学習後の振り返りの仕方について、学年研やブロック研で話し合い授業改善や道徳の振り返りの充実を図る。
 - ②YPAアセスメントを実施し、子どもの社会的スキル横浜プログラムを計画的に実施する。
 - ・YPAアセスメント実施後、支援検討会を持ち、横浜プログラムの選定や気になる児童について話し合う。また、クラスや児童の姿容について児童指導部や学年研で話し合う。
 - ③てくら遠足や月1回程度のたてわりあそびを行い、異学年交流を行う。
 - ・たてわり委員会を中心に、てくら遠足やたてわりあそびを計画し、実施する。
 - ・たてわり活動以外でも他学年とのかわりができるようカリキュラム上に位置づけ、具体的な計画を立て、実施していく。
 - ・年度当初に計画を立て、異学年交流を充実させる。
 - ⑤あいさつが増えているように、保護者や地域の方と協力した取組を行うなど、他者との関わりを大切に活動を増やしていく。
 - ・児童会や委員会活動を中心に、あいさつ運動やそれに関わる標語作成をし、全校に広める。
- 下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな心と体	①身体を動かすことの「楽しさ」を体験させるため、児童会活動を活用し、様々な遊びの紹介や身体を動かす機会を設ける。休み時間の外遊びを増やし運動の好きを伝える。②学校保健委員会と基本的生活習慣をテーマに取り上げ、児童保健委員による話し合いや調査、意識喚起をする。③家庭教師が学校・全校への保健指導を意図的、計画的に行い、基本的生活習慣の意識向上を図る。④バランスネットワークの活用や、栄養委員のチーム・ティーチングによる指導、給食委員会の活動を通して、食に関する指導の全体計画に沿って組織的・計画的に食に関わり取り組む。
担当	体育部・保健安全部

健やかな体に関わる本校の状況

・運動能力について
 ○運動委員会では、大縄チャレンジ70を実施し、毎月各クラスごとに記録をとることで、継続的に友達と協力して身体を動かす機会を設けた。休み時間に自主的に練習するクラスもあり、全体的に体を動かす機会が増えたとした。
 ▲たてわり委員会では、たてわり遊びを年に3回ほど行い、異学年が交流しながら身体を動かすことができた。仲は深まったが、運動する児童が増える程ではなかった。
 ・保健について
 ○年2回学校保健委員会を行い、「手洗い」をテーマにした話し合いをした。手洗いチェックカードの実験・児童へのアンケートの結果を踏まえ、各クラスで目標を決めて取り組んだ。手洗いを意識する児童が増えた。
 ○6年の保健学習を行い、生活習慣の意識向上を図った。また、5年生に宿泊前保健指導、個別級に水泳学習前のフライング・ジャンプの保健指導を行った。自他の身体について考え、自分たちの行動を見直すきっかけになった。

今年度の目標

運動（身体を動かすこと）が「楽しい」と感じる子を育てる
 基本的生活習慣を意識できる子を育てる

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
- 「運動（体を動かすこと）が「楽しい」と感じる子を育てる」
 - ①身体を動かすことの「楽しさ」を体験させる
 - ・たてわり遊びを活用し、外遊びの機会を設ける
 - ・運動委員会を活用し、休み時間の外遊びを促す
 - ・身体を動かす機会（長縄跳び等）を定期的に企画する
 - ②学校保健委員会
 - ・「姿勢」をテーマに基本的生活習慣を意識付けする学校保健委員会を運営する
 - ・栄養委員会の関わり
 - ・保健たよりを定期的に発行する
 - ・保健の授業や行事前等、適宜保健指導を行う
 - ④食育活動
 - ・児童の食生活の実態把握
 - ・食に関する指導に係る全体計画に沿った食に関する指導の組織的・計画的な実施：バランスネットワークの実施、栄養士のチーム・ティーチングによる食に関する指導の実施
 - ・食育たより、はくばくたよりを通じた食情報の発信
 - ・食育等での食育のメッセージを身に付けるため、顔に貼って給食を食べる機会を設ける
- 下半期

食育について

・食育について
 ▲食に関する学習や給食時間に栄養職員が関わり、食育取り組んだ。しかし、中学年は他学年に比べて食育の機会が少なかった。いずれの学年においても食育全体計画に沿って食育を行えるようにする。